

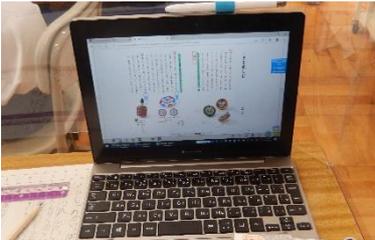
## 1人1台端末の活用による実践事例

教科名	国語	学年	2年生
単元名	どうぶつ園のじゅうい		
ねらい	タブレットを使ってデジタル教科書に線を引く活動を通して、お昼過ぎの獣医さんの仕事、わけ、工夫を読取ることができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等		・デジタル教科書国語 ・電子黒板	

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
	<p>1. 挿絵を使って今日の動物を確認する。 ・ワラビー</p> <p>2. 課題の設定</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>じゅういさんのしごとやそのわけ、くふうを読み取ろう。</p> </div> <p>3. 音読する</p> <p>4. いつ、どんなしごとをしているか考える。 いつ : 赤色で線を引く→お昼すぎ しごと : 青色で線を引く→ちりょうをする</p> <p>5. なぜ治療をするか考える わけ : 黄色で線を引く→はがぬけかわるときにばいきんが入ってはぐきをはれてしまったから</p> <p>6. 治療するときの工夫を考える。 くふう : 緑色で線を引く→三人のしいくいんさんにおさえてもらってちりょうしました。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>7. まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板にワラビーの写真を提示する。</li> <li>・タブレットをもって音読する。</li> <li>・デジタル教科書のペンの機能を使って線を引いていく。</li> <li>・発表の時は、その子の画面を電子黒板に映し、どこに線を引いたかを共有する。</li> </ul>

## 1人1台端末の活用による実践事例

教科名	国語	学年	3年
単元名	「こまを楽しむ」		
ねらい	「問いのこたえ」のあとの文章の役割を考える活動を通して、筆者が「こまのつくり」や「回る様子」を文中に入れることで、読者にこまのおもしろさを説明しようとしていることを捉えることができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	デジタル教科書・スカイメニュークラス		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
つ か む	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうして問いの答えのあとにも、段落の文が続いているのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型スクリーンに教科書本文を提示し、前時までの学習を復習する。</li> <li>・タブレットのデジタル教科書に線を引ながら教師の範読を聞く。</li> </ul>
広 げ る	<p>2 二段落で「問いの答え」あとにどんな内容が書かれているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模様が書いてある。</li> <li>・違う色に変わる。</li> </ul>  <p>3 それ以降の段落も同じように、「問いの答え」のあとに、何が書かれているか確認する。</p>	
深 め る	<p>4 「問いの答え」以降の文章の役割について話し合う。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず個人で考えを書いたあと、3人組のグループで、考えをタブレットのノートにまとめ、自分たちの考えを深める場を作る。</li> </ul>
ま と め る	<p>5 学習をまとめる</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者は「問いの答え」のあとに「こまのつくり」や「回る様子」を書くことで、読者にこまのおもしろさを伝えようとしている。</p> </div> <p>6 本時をふりかえる</p>	

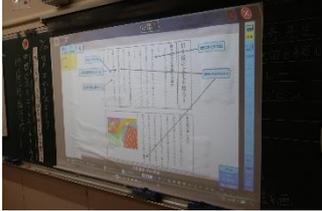
## 1人1台端末の活用による実践事例

教科名	国語	学年	4年
単元名	世界にほこる和紙 伝統工芸のよさを伝えよう		
ねらい	<p>調べたことを基に、必要な情報や文章構成を考えながらリーフレットに載せる文章の書くことができる。</p> <p>レイアウトを工夫して、リーフレットを完成させることができる。</p>		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	スカイメニュー, Word		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
<p>つかむ</p> <p>深める</p> <p>まとめる</p>	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>リーフレットのレイアウトを考えて、リーフレットを完成させよう。</p> </div> <p>2. リーフレットの2・3ページを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真や絵をどこにどのくらいの大きさで入れるのかなど工夫して読み手への相手意識をもって書く。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>3. リーフレットの表紙と裏表紙を作る。</p> <p>◎表紙と裏表紙を作るときに大切なことは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表紙にどの写真や絵を使うと伝わりやすいか考えて選ぶ。</li> <li>裏表紙には、参考になる本や情報なども紹介する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p style="font-size: small;">高山茶筌</p> <p style="font-size: small;">安福 悠乃</p> </div> <p>4. リーフレットをペアで読み合う。</p> <p>5. 本時のまとめ、ふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Word の原稿用紙を使用し、リーフレットの本文を作成。</li> <li>完成した本文を PDF にし、本文と写真や画像のレイアウトを考えさせる。</li> <li>写真や画像の説明を画像の下に入れる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>表紙にはどのような伝統工芸品のリーフレットなのか伝わりやすい画像を貼り付ける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存したお互いのリーフレットをタブレットで開き、読み合う。</li> </ul>

# 1人1台端末の活用による実践事例

教科名	国語	学年	6年
単元名	日本文化を発信しよう		
ねらい	お互いのパンフレットを読み合う活動を通して、仲間の書いた文章から表現の工夫や構成のよさを見つけ自分の作品に生かそうとすることができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	タブレット・スカイメニュー		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
つかむ	<p>1. 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>中韓交流をして、工夫していると感じたことを伝えよう。</p> </div> <p>2. 交流の進め方と評価の視点をつかみ、仲間のパンフレットを読み合い、タブレット上の画面に付箋でコメントを書き込み、評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカイメニューの機能を使い、同じ班の子のパンフレットを読んで評価を書き込む。</li> </ul>
深める	<p>3. 自分が評価したことを班で交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>4. 深めの発問から、学習を深める。 ◎先生の作品で、より読者に魅力を伝えるためにどうするとよいだろう。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>5. まとめる 読者に魅力を伝えるために、文末を工夫したり、よさを与える評価を入れることが大切である。</p> <p>6. ふりかえる 説明文を書くときは、写真を入れて文化の良さを伝える評価を入れたり、問いかけを入れたりして読者が興味をもって読めるように書きたい。</p>	

# 1人1台端末の活用による実践事例

教科名	国語	学年	2年、3年、5年
単元名	丁寧な観察して記録しよう。		
ねらい	自分が育てている野菜を、技カードにそって、大きさ、形、色、長さ、実の数、におい、手触りから選択して、プレゼンテーションすることができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等		タブレット、スカイメニュー	

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
つかむ	<p>1 発表することの確認をする。</p> <p>自分の育てている野菜を、大きさ、形、色、長さ、実の数、におい、手触りから選んで、プレゼンテーションしよう。</p> <p>・自分が発表するとき、どんなことに気をつけて話すのか話す。</p> 	<p>・大型テレビに映して、提示する。</p>
深める	<p>2 観察したことを、発表する。</p> <p>・自分のタブレットで、ミニトマト、ピーマン、なすの順番に発表する。</p>  <p>・技カードを使って、自分の育てている野菜を、大きさ、形、色、長さ、実の数、におい、手触りから選んで発表することができる。</p>  <p>・現在の写真と1週間前の2枚の写真を比較して、違うところを話す。</p> 	<p>・子どもたちは、自分の発表したい写真を選んで発表する。毎回、違う写真を選んで発表している。同じ写真は使わない。</p>  <p>・発表するときは、自分で写真を選び、発表している。</p>
まとめる	<p>・発表の後に、2人の子が質問、感想を話す。</p> <p>3 野菜かるたを行う。</p> <p>4 まとめ</p> <p>ミニトマトの花の数や実の数の写真を、指し棒で示し、前との違いを、相手に分かるように話せた。</p> <p>5 本時の振り返り 今日使った技を、技カードに書く。</p>	<p>・子どもたちの野菜を観察している姿をかるたにした。かるたを楽しんだ。</p> 